

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(令和8年2月分【埋立中共通調査②】)

【底質(一般項目)、陸域生態系(鳥類)】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター

目 次

I 事後調査の概要

1. 調査概要	I - 1
2. 工事の実施状況	I - 4
3. 調査結果の概要	I - 5

II 事後調査結果

1. 底質	II - 1
2. 陸域生態系（鳥類）	II - 2

I 事後調査の概要

1. 調査概要

「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく令和8年2月（底質、陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表－1に、調査地点の位置は図－1に示すとおりである。

表－1（1） 事後調査の概要（埋立地周辺における調査 底質（一般項目））

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
粒度組成 含水率 強熱減量 化学的酸素要求量(COD) 硫化物 全窒素(T-N) 全燐(T-P) 酸化還元電位	4点(表層土) 【2, 3, 4, 5】	2月5日	2回／年 (8月、2月)

表－1（2） 事後調査の概要（埋立地周辺における調査 陸域生態系(鳥類)）

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a, b, c, d】	2月12日、13日	4回／年(3年毎に実施) (5月、6月、8月、2月)

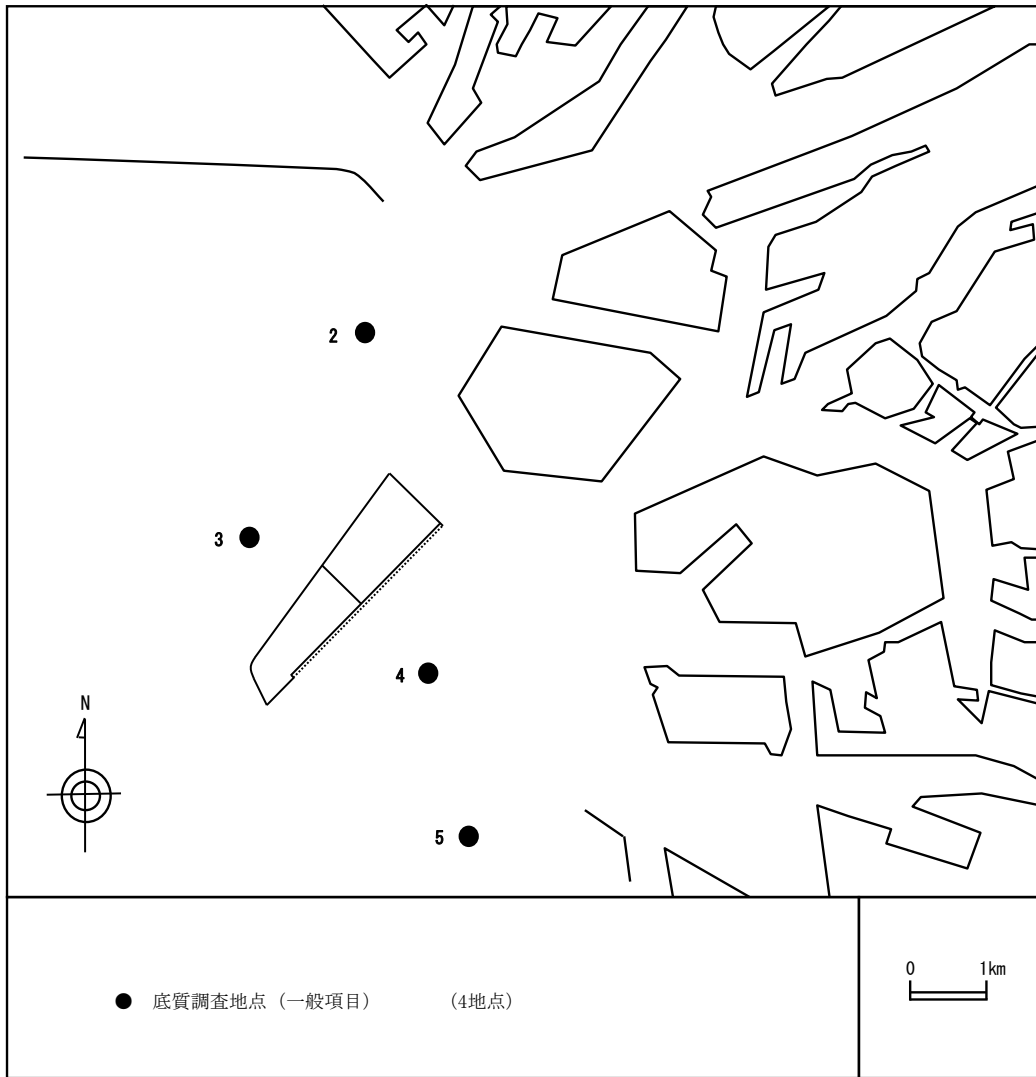
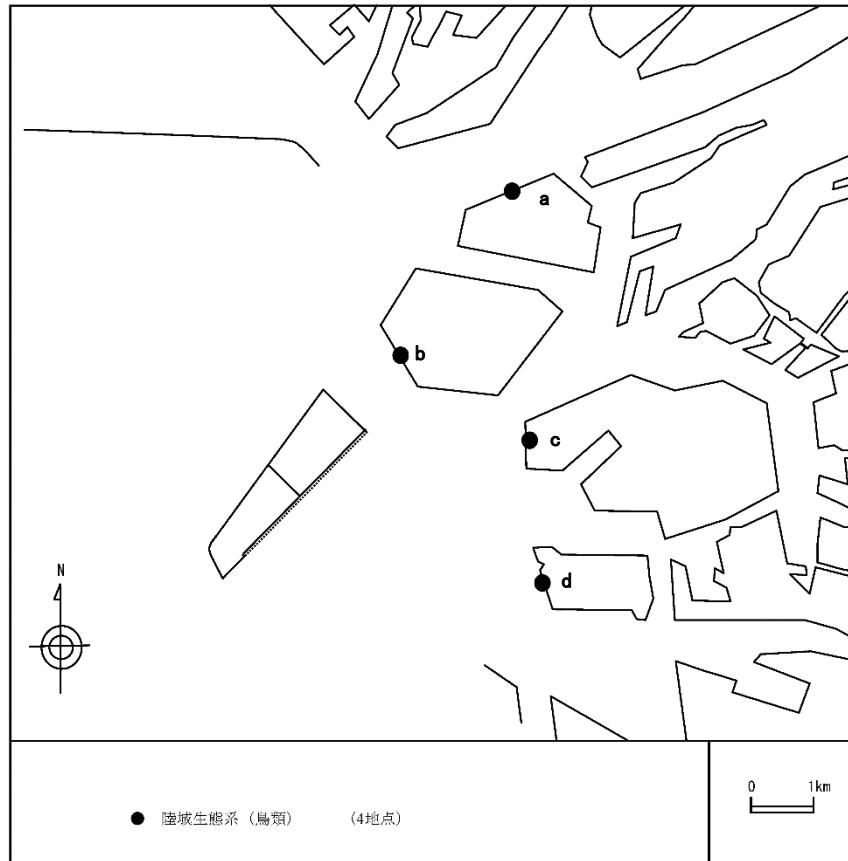


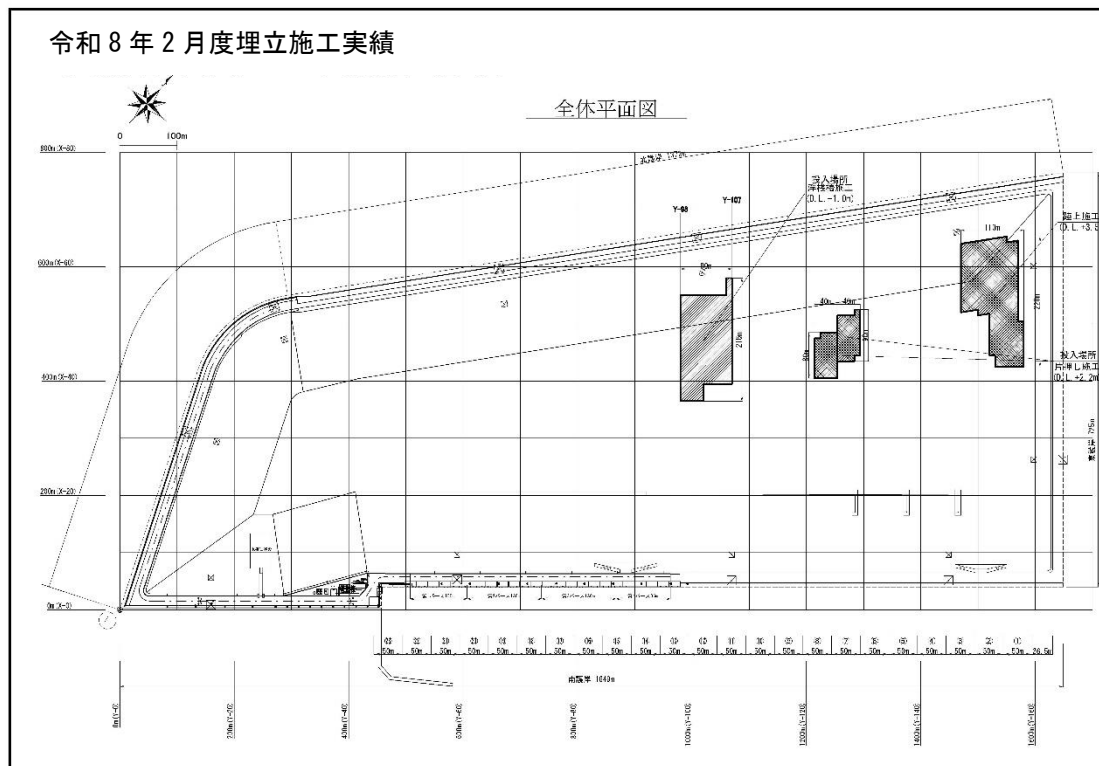
図-1(1) 底質(一般項目)の調査地点



図－1(2) 陸域生態系（鳥類）の調査地点

2. 工事の実施状況

令和8年2月の工事の実施状況は、図-2に示すとおりである。



埋立量 (m ³)	進捗率 (%)
8,837,831.1	63.2

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m³

図-2 工事の実施状況 (大阪沖処分場平面図)

3. 調査結果の概要

埋立地周辺における調査

(1) 底質 [底質様式第1号]

強熱減量は 10～11%、化学的酸素要求量(COD)は 24～25mg/g 乾泥、硫化物は 0.3～0.6mg/g 乾泥、全窒素(T-N)は 1.9～2.8mg/g 乾泥、全リン(T-P)は 0.57～0.71mg/g 乾泥の範囲であった。

(2) 陸域生態系（鳥類） [陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）]

鳥類の出現種類数は、4地点合計で 10目 17科 26種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点 a が最も多く 544羽であり、次いで調査地点 c の 52羽、調査地点 d の 19羽、調査地点 b の 16羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点 c が最も多く 13種であり、次いで調査地点 a の 10種、調査地点 d の 7種、調査地点 b の 5種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点 a における主要な出現種は、ホシハジロ（カモ目カモ科）、オオバン（ツル目クイナ科）、ヒドリガモ（カモ目カモ科）、カワラバト（ドバト）（ハト目ハト科）、キンクロハジロ（カモ目カモ科）、ハシブトガラス（スズメ目カラス科）、ヒヨドリ（スズメ目ヒヨドリ科）であった。

事業実施前（平成10年2月：調査地点の位置は、本年度調査の調査地点と同じ）に実施した2月の結果は、4地点合計で 8目 17科 37種であり、本年度は事業実施前と比べて種数が少なくなっていた。

事業実施前調査結果を表-2に示す。

陸域生態系（鳥類）表-2 事業実施前調査結果

区分	平成9年8月	平成10年2月	平成10年5月	平成10年6月	
出現状況	目	8	8	10	9
	科	18	17	21	19
	種	35	37	37	26
主な出現種 (個体数、 組成比率)	ウミネコ (35.4%)	ヒドリガモ (18.1%)	トウネン (32.2%)	ムクドリ (42.6%)	
	トウネン (27.2%)	ホシハジロ (11.0%)	コアジサシ (8.4%)	スズメ (12.3%)	
	カワウ (8.8%)	キンクロハジロ (7.6%)	シロチドリ (7.3%)	ツバメ (12.3%)	
	カルガモ (7.1%)	カワウ (6.1%)	アジサシ (4.5%)	コアジサシ (9.6%)	
	スズメ (4.5%)	スズメ (5.0%)	ハシブトガラス (4.3%)	ドバト (6.5%)	

調査地点		a	b	c	d	合計
平成9年8月	種類数	16	7	25	10	35
	個体数	103	524	281	91	999
平成10年2月	種類数	13	17	27	10	37
	個体数	321	456	964	107	1,848
平成10年5月	種類数	19	16	27	17	37
	個体数	73	106	517	126	822
平成10年6月	種類数	15	10	19	15	26
	個体数	130	138	175	109	552
年間	種類数	32	32	47	27	60
	個体数	627	1,224	1,937	433	4,221

前回調査（令和5年2月：調査地点の位置は、本年度調査の調査地点と同じ）と比較すると、種数は4地点合計で34種、令和7年度が4地点合計で26種であり、令和7年度が8種少なくなっていた。個体数は令和4年度が4地点合計で1577羽、令和7年度が4地点合計で631羽であり、令和7年度が946羽少なくなっていた。令和7年度において、種数、個体数はともに少なくなっているものの、ヒドリガモ、ホシハジロ等の冬鳥、カワウ、オオバン等の留鳥も多く確認されているため、種数や個体数の変化は年変動の範囲内であると考えられる。令和5年2月の調査結果を表-3に示す。

表-3 陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[令和5年2月分]

調査日：令和5年2月14日、15日

区分		地点別出現個体数				
		a	b	c	d	計
出現 状況	目	8	3	8	6	9
	科	12	8	16	9	20
	種	15	11	20	11	34
出現個体数		1356	51	98	72	1577
主な出現種 (個体数、 組成比率)	カワウ (740羽、54.6%)	スズメ (20羽、39.2%)	カワウ (16羽、16.3%)	ハシブトガラス (44羽、61.1%)	カワウ (756羽、47.9%)	
	ホシハジロ (561羽、41.4%)	タヒバリ (8羽、15.7%)	ヒヨドリ (13羽、13.3%)	カワラバト(ドバト) (9羽、12.5%)	ホシハジロ (561羽、35.6%)	
	オオバン (13羽、1.0%)	キンクロハジロ (5羽、9.8%)	マガモ (12羽、12.2%)	カモメ (5羽、6.9%)	ハシブトガラス (52羽、3.3%)	
	ヒヨドリ (10羽、0.7%)	ムクドリ (5羽、9.8%)	オオバン (12羽、12.2%)	ツクシガモ (2羽、2.8%)	オオバン (25羽、1.6%)	
	カンムリカイツブリ (7羽、0.5%)	カワラバト(ドバト) (3羽、5.9%)	アオサギ (7羽、7.1%)	ヒドリガモ (2羽、2.8%)	ヒヨドリ (25羽、1.6%)	
	カワラヒワ (3羽、5.9%)	コガモ (7羽、7.1%)	トビ (2羽、2.8%)			
		メジロ (7羽、7.1%)	ミサゴ (2羽、2.8%)			
			セグロカモメ (2羽、2.8%)			
			ヒヨドリ (2羽、2.8%)			

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

II 事後調查結果

底質様式第 1 号

底質調査結果（一般項目） [令和 8 年 2 月分]

調査日：令和8年2月5日

項目		調査点				最小値	～	最大値	平均値
		2	3	4	5				
採泥時刻		10:32	10:20	9:48	9:30	—		—	
粒度組成 [%]	粗礫 (19mm以上)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	～	0.0	0.0
	中礫 (4.75～19mm)	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	～	0.1	0.0
	細礫 (2.00～4.75mm)	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	～	0.1	0.1
	粗砂 (0.850～2.00mm)	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	～	0.2	0.2
	中砂 (0.250～0.850mm)	0.8	0.4	0.4	0.4	0.4	～	0.8	0.5
	細砂 (0.075～0.250mm)	1.2	0.7	0.5	0.4	0.4	～	1.2	0.7
	シルト (0.005～0.075mm)	80.2	81.2	78.1	81.6	78.1	～	81.6	80.3
	粘土 (0.005mm以下)	17.6	17.5	20.6	17.4	17.4	～	20.6	18.3
含水率 [%]		64	68	67	67	64	～	68	67
強熱減量 [%]		10	10	11	11	10	～	11	11
化学的酸素要求量 (COD) [mg/g乾泥]		24	24	25	24	24	～	25	24
硫化物 [mg/g乾泥]		0.3	0.3	0.6	0.4	0.3	～	0.6	0.4
全窒素 (T-N) [mg/g乾泥]		1.9	2.8	2.3	2.2	1.9	～	2.8	2.3
全磷 (T-P) [mg/g乾泥]		0.57	0.63	0.71	0.65	0.57	～	0.71	0.64
酸化還元電位 [mV]		-360	-340	-320	-330	-360	～	-320	-338

特記事項

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）〔令和8年2月分〕

調査日：令和8年2月12日、13日

No.	目名	科名	種名	渡り区分	地点別出現個体数				
					a	b	c	d	計
1	カモ目	カモ科	ヒドリガモ	冬鳥	28				28
2			ホシハジロ	冬鳥	459				459
3			キンクロハジロ	冬鳥	3				3
4			スズガモ	冬鳥	1				1
5			ウミアイサ	冬鳥				3	3
6	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥			4	4	
7			カンムリカイツブリ	冬鳥	1	1		3	5
8	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	移入種	12			12	
9			キジバト	留鳥			1	1	
10	カツオドリ目	ウ科	カワウ	留鳥		3	7	10	
11	ペリカン目	サギ科	アオサギ	留鳥			2	2	
12	ツル目	クイナ科	オオバン	留鳥	33		26	59	
13	チドリ目	カモメ科	カモメ	冬鳥			3	3	
14			セグロカモメ	冬鳥		1		2	3
15	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥		1		1	
16		タカ科	トビ	留鳥			1	1	
17	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	留鳥			1	1	
18	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	留鳥			1	1	
19			ハシブトガラス	留鳥	3		2	2	7
20		シジュウカラ科	シジュウカラ	留鳥			1	1	
21		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	3		5	1	9
22		メジロ科	メジロ	留鳥			3	3	
23		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥		10		10	
24		ヒタキ科	ジョウビタキ	冬鳥	1			1	
25			イソヒヨドリ	留鳥			1	1	
26		アトリ科	カワラヒロ	留鳥（一部冬鳥）			2	2	
合計（10目17科26種）				目数	5	5	8	4	10
				科数	7	5	13	5	17
				種類数	10	5	13	7	26
				個体数	544	16	52	19	631

注) 1. 分類及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー令和6年度生物リスト」（国土交通省 2024）に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」（(財)日本野鳥の会大阪支部、2001）に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[令和8年2月分]

調査日：令和8年2月12日、13日

区分		地点別出現数				
		a	b	c	d	計
出現状況	目	5	5	8	4	10
	科	7	5	13	5	17
	種	10	5	13	7	26
出現個体数		544	16	52	19	631
主な出現種 (個体数、組成比率)	ホシハジロ (459羽、84.4%)	ムクドリ (10羽、62.5%)	オオバン (26羽、50%)	カワウ (7羽、36.8%)	ホシハジロ (459羽、72.7%)	
	オオバン (33羽、6.1%)	カワウ (3羽、18.8%)	ヒヨドリ (5羽、9.6%)	カンムリカイツブリ (3羽、15.8%)	オオバン (59羽、9.4%)	
	ヒドリガモ (28羽、5.1%)	セグロカモメ (1羽、6.3%)	カイツブリ (4羽、7.7%)	カモメ (3羽、15.8%)	ヒドリガモ (28羽、4.4%)	
	カワラバト (ドバト) (12羽、2.2%)	カンムリカイツブリ (1羽、6.3%)	ウミアイサ (3羽、5.8%)	セグロカモメ (2羽、10.5%)	カワラバト (ドバト) (12羽、1.9%)	
	キンクロハジロ (3羽、0.6%)	ミサゴ (1羽、6.3%)	メジロ (3羽、5.8%)	ハシブトガラス (2羽、10.5%)	カワウ (10羽、1.6%)	
	ハシブトガラス (3羽、0.6%)				ムクドリ (10羽、1.6%)	
	ヒヨドリ (3羽、0.6%)					

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）〔令和8年2月分〕

調査日：令和8年2月12日、13日

調査地点		a		調査地点		b	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	カモ科	4	90.3%	1	ムクドリ科	1	62.5%
2	クイナ科	1	6.1%	2	ウ科	1	18.8%
3	ハト科	1	2.2%	3	カイツブリ科	1	6.3%
4	カラス科	1	0.6%	3	カモメ科	1	6.3%
4	ヒヨドリ科	1	0.6%	3	ミサゴ科	1	6.3%
6	カイツブリ科	1	0.2%				
6	ヒタキ科	1	0.2%				

調査地点		c		調査地点		d	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	クイナ科	1	50.0%	1	ウ科	1	36.8%
2	ヒヨドリ科	1	9.6%	2	カモメ科	2	26.3%
3	カイツブリ科	1	7.7%	3	カイツブリ科	1	15.8%
4	カモ科	1	5.8%	3	カラス科	2	15.8%
4	メジロ科	1	5.8%	5	ヒヨドリ科	1	5.3%
6	サギ科	1	3.8%				
6	カラス科	1	3.8%				
6	アトリ科	1	3.8%				
9	ハト科	1	1.9%				
9	タカ科	1	1.9%				
9	カワセミ科	1	1.9%				
9	シジュウカラ科	1	1.9%				
9	ヒタキ科	1	1.9%				

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。